

の治療 11 873-875, 2003

前田 学、山崎隆治、荒木麻里、遠渡 舞、
佐々木 津、石井則久 環状紅斑を主訴と
したハンセン病 (B 群) のブラジル人女性
例 西日本皮膚科 65 351-354, 2003

中山聡子、上坂義和、國本雅也、三方崇嗣、
清水 潤、石井則久 急性発症の疼痛をと
もなった上肢多発性単神経炎型ハンセン
病ニューロパチーの 1 例 臨床神経学 43
265-269, 2003

石井則久 抗酸菌感染症 (皮膚結核とハン
セン病) の診断と治療 p1-10, 日本皮膚科
学会研修委員会 (東京), 2003

石井則久、佐々木 津 熱帯医学の動向と
輸入感染症 MB デルマ 78 17-23, 2003

石井則久 ハンセン病 ヴィジュアル タ
ーマトロジー 2 1060-1061, 2003

市川栄子、大塚藤男、堀井のり子、田中未
知、石井則久、杉田泰之、小関正倫 ハン
セン病患者の 2 例 日本ハンセン病学会誌
72 271-273, 2003

杉田泰之、吉仲 真、武川るみ、大沼すみ、
石井則久、中嶋 弘 多菌型ハンセン病の
1 例 日本ハンセン病学会誌 72 279-281,
2003

鈴木陽子、瀧川雅浩、石井則久 多菌型ハ
ンセン病として治療したが最終診断未定
の症例 日本ハンセン病学会誌 72
287-290, 2003

2 学会発表

松本和彦、酒井咲子、飯島みわ子、齋田俊

明、石井則久 日系ブラジル人に発症した
lepromatous leprosy の 1 例 第 102 回
日本皮膚科学会総会, 浦安, 2003 年 5 月
堤 祐子、川上民裕、上西香子、山前恵美
子、保坂恵理、芳賀恒夫、木村聡子、相馬
良直、溝口昌子、石井則久 サリドマイド
を併用したハンセン病の 1 例 第 102 回
日本皮膚科学会総会, 浦安, 2003 年 5 月
石井則久、小原安喜子、熊野公子、佐々木
津、杉田泰之、並里まさ子、野上玲子、細
川 篤、牧野正直 2002 年のハンセン病
新患発生状況 第 76 回日本ハンセン病
学会総会, 神戸, 2003 年 7 月

加藤知子、柳田敦美、松本義也、杉田泰之、
石井則久、富田 靖 日本で発症した在日
外国人の多菌型ハンセン病の一例 第 7
6 回日本ハンセン病学会総会, 神戸, 2003
年 7 月

市川栄子、大塚藤男、堀井のり子、田中未
知、石井則久、杉田泰之、小関正倫 ハン
セン病の 2 例 第 76 回日本ハンセン病学
会総会, 神戸, 2003 年 7 月

杉田泰之、吉仲 真、石井則久、中嶋 弘
高齢発症の多菌型ハンセン病の 1 例 第 7
6 回日本ハンセン病学会総会, 神戸, 2003
年 7 月

鈴木陽子、瀧川雅浩、石井則久 多菌型ハ
ンセン病と診断したか誤診とされた症例
第 76 回日本ハンセン病学会総会, 神戸,
2003 年 7 月

吉仲 真、小関正倫、矢島幹久、成田 稔、
石井則久 手関節神経病性関節症を生じた

LL型ハンセン病の1例 第76回日本ハンセン病学会総会, 神戸, 2003年7月	2003年10月
石井則久 抗酸菌感染症 日本皮膚科学会前実績研修講習会, 東京, 2003年8月	石井則久 抗酸菌感染症(皮膚結核とハンセン病)の診断と治療 日本皮膚科学会前実績研修講習会, 大阪, 2003年11月
笹木慶子、下江敬生、石井則久 1型反応を生じたBL型ハンセン病の1例 第55回日本皮膚科学会西部支部学術大会松山市,	H 知的財産権の出願・登録状況 なし

2003年新規患者 (2004年1月20日現在)

	国籍 (出身)	性	年齢 (年代)	病型	参考
1	日本 (沖縄県)	M	70	PB (BT)	2003-4
2	ブラジル	M	40	MB (BL)	2003-2
3	ブラジル	M	20	MB (BL)	2003-3
4	ブラジル	M	40	MB (BT)	2003-7
5	インドネシア	M	20	MB (BL)	2003-1
6	ネパール	M	50	MB (BL)	2003-5
7	ミャンマー	M	30	PB (BT)	2003-6
8	フィリピン	F	20	MB (BT)	2003-8

平成15年 (2003年) 新患のまとめ
(2004年1月20日現在)

日本人			在日外国人		
性	人数	平均年齢	性	人数	平均年齢
男	1	72	男	6	37.8 (23-50)
女	0		女	1	29
計	1	72	計	7	36.6 (23-50)

MB 0 PB 1
沖縄県出身者 1人

MB 6 PB 1
ブラジル人 3人 39.3 (24-48)

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）

ハンセン病療養所における新たな介護職員配置基準の作成

平成 15 年度 分担研究報告書

分担研究者 占部 正子

(国立療養所菊池恵楓園)

厚生労働科学研究費補助金（新興 再興感染症研究事業）

分担研究報告書

ハンセン病療養所における介護職員配置基準の作成に関する研究

分担研究者 占部正子 国立療養所菊池恵楓園 看護部長

研究要旨

本研究は、ハンセンの後遺症による身体複合障害に加え、高齢化による諸々の内科的合併症等で、日常生活の多くに介護を必要としている国立ハンセン病療養所入所者（以下、入所者という）に対し、適切な介護を行うために、入所者の介護量を正しく把握した上で、適正な介護員の配置基準を作成する事を目的とする。

ハンセン病療養所 13 施設の共同により、現有の介護度調査票をもとに調査を実施後、問題点を明確にした上で、他の障害者の介護認定等を考慮しなから、新たな介護度調査票を作成する。

本調査に基づき、入所者個人、不自由者棟毎と、各施設毎の介護量を明確にし、明らかになった介護量をもとに介護員の配置基準を作成し、各施設の適正な介護員数を把握する。

本研究で生み出される成果を活用することで、各施設は入所者が必要とする介護量を正しく把握し、介護量にあわせた適切な介護を行っていくことに役立てる。初年度は、1995年作成の介護度調査票に基づく調査を行い、内容・方法等の問題点を明確にするとともに、介護度認定等の調査と比較検討を行う。

研究協力者

白戸ユキ（国立療養所松丘保養園総看護師長）横内みどり（国立療養所東北新生園総看護師長）加賀谷紀子（国立療養所栗生楽泉園看護部長）地蔵テイ子（国立療養所多磨全生園看護部長）渡邊まつ子（国立駿河療養所総看護師長）岩佐美智子（国立療養所長島愛生園看護部長）石原淑恵（国立療養所邑久光明園看護部長）平山道子（国立療養所大島青松園総看護師長）赤嶺むつ子（国立療養所星塚敬愛園看護部長）宮平幸子（国立療養所奄美和光園総看護師長）仲間悦子（国立療養所沖縄愛楽園看護部長）岡本邦子（国立療養所宮古南静園総看護師長）

A 研究目的

多くの入所者はハンセン病後遺症による身体の複合障害に加え、高齢化による諸々の内科的合併症等で、日常生活の多くに介護を必要としている。このような入所者に対し、適切な介護を行うために入所者の介護量を正しく把握した上で、適正な介護員の配置基準を作成することを目的とする。2003年度は1995年作成の介護度調査票を用いて、調査内容・方法等の問題点を明らかにする。

B 研究方法

調査対象者 国立ハンセン療養所 13 施設

の入所者（長期不在者をのそく）全員
調査期間 2003年9月1日～20日
調査方法 1995年作成の介護度調査票
を使用し、看護師長・看護
師・介護員の3名1組で聞
き取り・観察調査をおこな
い介護度調査票の問題点の
抽出をする。

（倫理面への配慮）

倫理面への配慮として、データ収集にお
いては入所者への説明を充分行い、個人の
データを電算処理し各個人を特定されない
様配慮する。

C 研究結果およびD 考察

介護度調査票（表1）

国立ハンセン病療養所施設別入所者
数・職員数（表2）

1995年作成の介護度調査票（表1）を
使用し調査を行った結果、次のようなこ
とが明らかになった。

- 1 入所者が介護員に援助を受けなくとも、
入所者自身が一人てできるにもかかわらず、
介護員が行ってしまっている現状がある。
介護業務としてルーチン化してしまっ
ている掃除、配膳下膳、洗濯等の業務に多
くみられる。また、調査の方法が入所者
か1人てできるかどうかでなく、介護員
か業務をしているかどうかで記入されて
いるので、入所者個々の介護の必要度と
いえない。このことは入所者側の視点と
介護員側の視点で異なる。盲人であって
もすべて介護を要するとは限らない。特

殊な場合もあるか視点を定めることによ
り解決できる。

- 2 一つの項目の中に多くの要素を含ん
ているので評価しにくい。

食事の項目をみると、進行状況1の中
に配膳、下膳の2つの要素がある。進行
状況2の中に再調理が必要、献立の説明、
食器の位置を決める、時に補食をつくる
等、4つの要素を含んでいる。進行状況3
の自助具、エプロンの介助、食べこぼし
の後始末、補食の要求が多い等、4つの
要素を含んでいる。進行状況5では全て
介助、ミキサー、きざみ、再加工、経管
栄養等、手の込んだ再調理が必要、介助
しながら見守り声かけ励ましが必要であ
る等、3つの要素が含まれている。10項
目全てに2つ以上の要素が含まれている。
食事の進行状況1を例にとれば2つの要
素があり、入所者によっては配膳は介護
員がしなければいけないか、下膳は入所
者かてきえる方もあり、とまどいながら
評価している。

- 3 進行状況1つの中に認知と行動のレ
ベルがあり評価にとまどっている。

掃除整理整頓の進行状況5では何処に
何が収納されているかわかっているとい
う認知レベルと、介助を必要とするとい
う行動レベルがある。認知と、行動のレ
ベルの評価を行い、そのことか盲人、痴
呆の方全てに当てはまるとも限らない。
意思の疎通の進行状況4では勘違いや思
いこみが強いという認知レベルと、言葉
で説明しても納得させるのに時間がかか
るといいう行動レベルがある。

- 4 「職員とゆっくり話がしたい」「話を聞
いてほしい」という心のケア・を求めて

いるか、介護度調査票では計ることができない。今後研究を深めて新たな項目が必要ではないかと考える。

- 5 介護度調査票には知覚麻痺、垂足、垂手等のハンセン病後遺症により二次的に起こってくる火傷、熱傷、凍傷、転倒転落、誤薬等に対する安全管理の項目、事故防止やQOL向上のための観察の項目がこの調査票にはない。
- 6 調査票の内容や点数配分の根拠がはっきりしていない。1995年度に作成された介護度調査票の点数配分の根拠及び、優先順位も妥当かどうか。又、入所者の高齢化に伴い、調査票の項目の優先順位は異なると思われる。今後研究をすすめる上ではタイムスタディ調査等で明確にしていかねばならないと考える。

E 結論

以上のことより下記の項目の問題点が明らかになった。

- 1 一つの項目に多くの要素が含まれている。
- 2 認知レベルの内容と行動レベルの内容が混在している。
- 3 主語が入所者なのか、介護員なのか視点が統一されていない。
- 4 調査票の10項目以外、ハンセン独自の項目がない。
- 5 調査票の項目の優先順位か、入所者に必要なものか、介護員の業務の範疇なのか明確でない。

おわりに

国立ハンセン病療養所入所者の平均年齢は750歳を超え超高齢化の中、現在国立

ハンセン病療養所における介護基準の判定は入所者の障害を基に判断されている。この基準及び現有の介護度調査票は正確に介護の実情を判定しているとはいえないため、現有の介護度調査票の見直し、又はあらたな調査票を作成し入所者の介護量を正しく把握し適正な人員配置基準を作成したいと考えている。

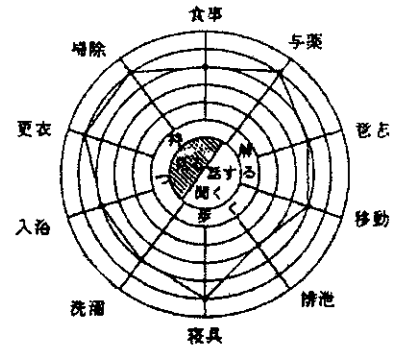
2004年度は2003年度で明らかになった問題点を基に内容・方法の根拠をあきらかにし、介護認定等の調査と比較検討していく予定である。

参考文献

- 1) 1987年、石田らによる「ハンセン病における後遺症のための日常生活上の不自由度に関する研究」により、従来おこなわれていた不自由度調査の一般から特別不自由の5段階に該当する入所者の特徴が明らかになった。
- 2) 1988年石田らによる「不自由者棟における介護のあり方に関する研究」により、不自由者棟の介護の現状や課題から、不自由者棟における介護の特殊性が明らかになり、不自由者棟における介護のあり方を考察している。
- 3) 1995年、窪川らによる「ハンセン病療養所における高齢化と介護に関わる研究」により、入所者の生活の不自由度に対する介護の度合いを介護度調査票を作成し、実態調査をした。

(表1) 介護調査票

園 センター 病棟・一般食
 氏名 K M (男)・女 74才 夫婦 (独身) 介護度占 181占



- 視力障害 ①弱 2弱
- 聴覚障害 1ろう (耳前大声含む)
- 知覚障害 ①四肢の知覚がない
- 手の障害 ①下蓋手(右・左) 2強い拘縮がある
- 足の障害 1切断(右・左) ②踵足(右・左)
- 体幹障害 1片麻痺(右・左)
- 痴呆 1痴呆あり
- 老人性精神障害 1老人性精神障害あり

進行状況 → できない 少し手を借りればできる 大体できる

介護内容	0	1	2	3	4	5	配点	点数
10 食事	介助を必要としない。	配膳 下膳をする。	再調理が必要。食卓の位置を決める。時に、補食をつくる。	自助具・エプロンの介助。食卓の位置を決める。時に、補食をつくる。	食事の時は必要。食見介助。食卓の位置を決める。時に、補食をつくる。	全介助。食卓の位置を決める。時に、補食をつくる。	3	30
9 掃除整理	介助を必要としない。	掃除機をかける。掃除機をかける。(2-3回)	掃除機をかける。掃除機をかける。	掃除機をかける。掃除機をかける。	掃除機をかける。掃除機をかける。	全介助。掃除機をかける。掃除機をかける。	4	36
8 意思の疎通	可能である。	聴力が落ちている。聞き取りにくい。	聴力が落ちている。聞き取りにくい。	聴力が落ちている。聞き取りにくい。	聴力が落ちている。聞き取りにくい。	聴力が落ちている。聞き取りにくい。	3	24
7 洗濯	介助を必要としない。	洗濯機をかける。洗濯機をかける。	洗濯機をかける。洗濯機をかける。	洗濯機をかける。洗濯機をかける。	洗濯機をかける。洗濯機をかける。	全介助。洗濯機をかける。洗濯機をかける。	3	21
6 入浴	介助を必要としない。	入浴剤を入れる。入浴剤を入れる。	入浴剤を入れる。入浴剤を入れる。	入浴剤を入れる。入浴剤を入れる。	入浴剤を入れる。入浴剤を入れる。	全介助。入浴剤を入れる。入浴剤を入れる。	3	18
5 更衣	介助を必要としない。	更衣室に入る。更衣室に入る。	更衣室に入る。更衣室に入る。	更衣室に入る。更衣室に入る。	更衣室に入る。更衣室に入る。	全介助。更衣室に入る。更衣室に入る。	4	20
4 与薬	介助を必要としない。	薬を飲む。薬を飲む。	薬を飲む。薬を飲む。	薬を飲む。薬を飲む。	薬を飲む。薬を飲む。	全介助。薬を飲む。薬を飲む。	4	16
3 排泄	介助を必要としない。	トイレに行く。トイレに行く。	トイレに行く。トイレに行く。	トイレに行く。トイレに行く。	トイレに行く。トイレに行く。	全介助。トイレに行く。トイレに行く。	2	6
2 移動	介助を必要としない。	歩行補助器を使う。歩行補助器を使う。	歩行補助器を使う。歩行補助器を使う。	歩行補助器を使う。歩行補助器を使う。	歩行補助器を使う。歩行補助器を使う。	全介助。歩行補助器を使う。歩行補助器を使う。	3	6
1 寝具	介助を必要としない。	布団を敷く。布団を敷く。	布団を敷く。布団を敷く。	布団を敷く。布団を敷く。	布団を敷く。布団を敷く。	全介助。布団を敷く。布団を敷く。	4	4

(表2)

国立ハンセン病療養所施設別入所者数・職員数

H15 10 1現在

番号	施設名	入所者数			看護部(課)職員数			全職員数	
		不自由者棟	一般寮	福祉所属	合計	看護師	介護員		合計
1	松丘保養園	141	57	28	226	74	98	172	203
2	東北新生園	117	66	0	183	66	69	135	229
3	栗生楽泉園	85	108	22	215	77	70	147	241
4	多磨全生園	216	205	15	436	137	148	285	459
5	駿河療養所	68	79	0	147	54	52	106	180
6	長島愛生園	173	220	78	471	139	167	306	490
7	邑久光明園	187	92	0	279	90	117	207	244
8	大島青松園	110	45	26	181	70	90	160	199
9	菊池恵楓園	232	330	11	573	167	212	379	584
10	星塚敬愛園	156	192	0	348	121	129	250	408
11	奄美和光園	34	36	4	74	39	24	63	119
12	沖縄愛楽園	207	143	0	350	93	122	215	347
13	宮古南静園	39	63	0	102	44	43	87	165
合計		1765	1636	184	3585	1171	1341	2512	3868

研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
石井則久	Hansen病	新村真人 瀧川雅弘	皮膚疾患最新 の治療 2003-2004	(株)南江堂	東京	2003	p137
石井則久 佐々木津	皮膚知覚異常	玉置邦彦	最新皮膚科学 体系第18巻全 身疾患と皮膚 病変	(株)中山書 店	東京	2003	p298-300
石井則久	全身療法	玉置邦彦	最新皮膚科学 体系第2巻皮 膚科治療学皮 膚科救急	(株)中山書 店	東京	2003	p100-102
石井則久	抗酸菌感染症		前実績研修講 習会必須Aコー ス	日本皮膚 科学会研 修委員会 刊	東京	2003	p1-12
石井則久	抗酸菌感染症(皮膚 結核とハンセン病) の診断と治療		中部支部企画 前実績研修講 習会	日本皮膚 科学会研 修委員会 刊	東京	2003	p1-10

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yamaguchi H. Osaki T. Taguchi H. Sato N. Toyoda M. Takahashi M. Kai M. Nakata N. Komatsu A. Atomu Y. Kamiya S	Effect of bacterial Flora on postimmunization gastritis following oral vaccination of Mice with <i>Helicobacter</i> <i>Pylori</i> heat shock protein 60	Clin Diagn Lab Immunol	10 (5)	808-812	2003

<u>Kai M.</u> <u>Maeda Y.</u> Maeda S. Fukutomi Y. Kobayashi k Kashiwabara Y <u>Makino M.</u> Abbasi MA Khan MZ Shah PA	Active surveillance of leprosy of contacts in country with low prevalence rate	Intl J Leprosy	in press		2004
Takade A. Umeda A. <u>Matsuoka M.</u> Yoshida S. Nakamura M. Amako K	Comparative studies of the cell structures of <i>Mycobacterium leprae</i> and <i>M. tuberculosis</i> using the electron microscopy freeze-substitution technique	Microbiol Immunol	47 (4)	265-270	2003
Amako K. Takade A. Umeda A. <u>Matsuoka M.</u> Yoshida S. Nakamura M	Degradation process of <i>Mycobacterium leprae</i> cells in infected tissue examined by the freeze-substitution method in electron microscopy	Microbiol Immunol	47 (6)	387-394	2003
<u>Matsuoka M.</u> Kashiwabara Y. Zhang L. Gotoh M. Kitajima S	A second case of multidrug resistant <i>Mycobacterium leprae</i> isolated from a Japanese patient with relapsed lepromatous leprosy	Int J Lepr	71 (3)	240-243	2003
儀同 政一 並里まさ子 熊野 公子 後藤 正道 野上 玲子 尾崎 元昭	ニューキノロン使用指針	日本ハンセン病学会雑誌	73	in press	2004

牧野 正彦	らい菌と樹状細胞の相互作用	臨床免疫	39 (2)	109-115	2003
Maeda Y, Brennan PJ, Makino M	Studies of lipoproteins of <i>Mycobacterium leprae</i>	Jpn J Leprosy	73	in press	2004
Maeda Y, Gidoh M, Ishii N, Mukai C, Makino M	Assessment of cell mediated immunogenicity of <i>Mycobacterium Leprae</i> -derived antigens	Cell Immunol	222	69-77	2003
Krutzik SR, Ochoa MT, Sieling PA, Uematsu S, Ng YW, Legaspi A, Liu PT, Cole ST, Godowski PJ, Maeda Y, Sarno EN, Norgard MV, Brennan PJ, Akira S, Rea TH, Modlin RL	Activation and regulation of Toll-like receptors 2 and 1 in human leprosy	Nature Med	9 (5)	525-532	2003
Matsushita S, Ohyama H, Kudo H, Tabata H, Matsuoka T	HLA-mediated signaling via HLA-peptide-TCR Complex determines immune responses of antigen-presenting cells	Current Topics in Peptide & Protein Research		in press	2004
中山聡子、上坂義和、國本雅也、三方嵩嗣、清水潤、石井則久	急性発症の疼痛をともなった上肢多発性単神経炎型ハンセン病ニューロパチーの1例	臨床神経学	43 (5)	265-269	2003
市川栄子、大塚藤男、堀井のり子、田中未知、石井則久、杉田泰之、小関正倫	ハンセン病患者の2例	日本ハンセン病学会誌	72	271-273	2003

杉田泰之、吉仲真、 武川るみ、大沼す み、石井則久、中 嶋弘	多菌型ハンセン病の1例	日本ハンセン 病学会誌	72	279-281	2003
鈴木陽子、瀧川雅 浩、石井則久	多菌型ハンセン病とし て治療したか最終診断 未定の症例	日本ハンセン 病学会誌	72	287-290	2003
石井則久	特集 皮膚症状のみかた とその治療—専門医か らのアドハイス—皮膚 感染症の検査と診断	今月の治療	11 (8)	873-875	2003
前田学、山崎隆 治、荒木麻理、遠 渡舞、佐々木津、 石井則久	環状紅班を主訴とした ハンセン病 (B群) のブ ラジル人女性例	西日本皮膚科	65 (4)	351-354	2003
石井則久、佐々木 津	◆ 特集/見逃してはな らない感染症 熱帯医学の動向と輸入 感染症	MBデルマ	No 78別冊	17-23	2003

20030530

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。